



つなみのひ

紙芝居「つなみのひ」

(全学年向け)

脚本:にいの ゆうひこ 絵:しもかわら ゆみ (13枚・表紙含む) 製作:公益社団法人「小さな親切」運動本部

① 海の近く、静かでのんびりしたどうぶつ村。ある日、仲良しのコタローとポンタが魚釣りをしていると、大きな地震がおきました。そしてそれがおさまると、海が高く盛り上がり、壁のようになって近づいてきました。



② 壁の正体は津波でした。ふたりは駆け出しますが、大きな壁はみるみるうちに押し寄せてきます。津波がふたりに襲いかかりました。



③ 気がつくとも、コタローは高い木の上にしがみついていた。しかしポンタの姿が見えません。漁師のおじさんが、また津波が来るかもしれないと、コタローに危険を知らせます。



④ 岡の上にある避難先の小学校までの道のりはいつもとすっかり違っていました。コタローが知っている村はどこにもありません。



⑤ 小学校にはたくさんの村人が集まっていた。怪我をしている人、泣き続けている人、力を落としている人、みんなを見まわってお医者さんや看護師さんも大変です。



⑥ コタローのお母さんが駆け寄ってきて、コタローを抱きしめました。ポンタがいなくなったことをお母さんに話すと、お母さんは、実はお父さんの行方もわからなくなっていることを知らせます。



⑦ おにぎりが配られ、みんなが順番にもらっていきます。すると「独り占めするな」との声が聞こえました。いつもは優しいおじさんたちが、言い争っています。大勢いるのに、体育館はシーンと静まりかえりました。



⑧ 突然、明るい笛の音が鳴り響きました。村一番の笛名人が、村祭りにみんなで踊る『どうぶつ村音頭』を吹いています。いつの間にか、その場にいた全員が手拍子を叩いていました。



⑨ 音楽が終わると、村長さんが、今は苦しいが、みんなで助け合おうと話しました。おにぎりを多くもっていたおじさんは「行方のわからない子どもの分も、とってとりすぎてしまった」と謝りました。



⑩ みんなで朝のあいさつをすることを決めました。あいさつをすれば元気がでできます。またみんなで仕事の役割分担をすることも決めました。コタローも一生懸命にお手伝いをしました。



⑪ カモメの捜索隊が、沖合のまんまる島に、村の仲間が流れ着いていることを知らせてきました。仲間を迎えに行くため、みんなで協力して大きなイカダを作りました。



⑫ お父さんも、ポンタも、無事でした。助かった仲間たちは元の村に戻そうと頑張っています。コタローとポンタは海が少し怖くなりましたが、やっぱり魚釣りは大好き。「早く海で魚釣りしたいね」と話合っています。

